

## 経営健全化方針に基づく取組状況（令和元年度）

### ○法人名

太平山観光開発株式会社

### ○経営健全化方針を策定した理由

- ・秋田市から借り入れた債務が主な要因で、債務超過団体となっている。  
（令和元年度末残高 60,000千円）
- ・経営状況において、平成18年度以降黒字決算であったが、平成29年度は、暖冬少雪によるスキー場収入の減少等により赤字決算となった。

### ○財政的リスク状況

	平成29年度決算	令和元年度決算	目標達成年度 (令和4年度)
債務超過額（千円）	53,901	34,465	0

### ○主な取組状況（令和2年3月現在）

#### 【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

- ・指定管理事業と自主事業の両立によって、施設の利用促進と収益確保に努めた。
- ・記録的な暖冬少雪により、スキー場の営業不振から施設利用者数および収入増加には至らなかったものの、管理経費の縮減等により、収益を確保することができた。
- ・天候が事業収益に大きく影響するため、その対応策を検討する必要がある。

指定管理事業：公共施設を適切に管理運営し、施設の利用促進を図る。

- ① 光熱水費を対前年比で約10百万円縮減した。
  - ・電気契約の見直しと省電力化：対前年比で約8百万円縮減。
  - ・ガスの使用量縮減等：対前年比で約2百万円縮減。
- ② 人件費を対前年比で約23百万円縮減した。
  - ・退職者不補充対応：対前年比で約12百万円縮減。
  - ・賞与不支給：前年対比で約11百万円縮減。

自主事業：環境や利用者ニーズの変化に対応し、収益性を高める。

- ① 飲食部門の規模縮小により、収益性を改善。
- ② 施設の利用促進を図るための方法を検討。

#### 【地方公共団体による財政的なリスクへの対処のための対応】

- ・「太平山観光開発(株)の経営健全化に関する検討会議」を開催（令和元年度8回）し、経営状況の把握と課題の解決に向けた方策を協議している。

### ○法人の財務状況（貸借対照表から）

（単位：百万円）

	平成29年度決算	令和元年度決算
資産総額	82	79
（うち現預金）	55	47
（うち売上債権）	5	3
（うち棚卸資産）	6	4
（うち固定資産）	16	25
負債総額	136	113
（うち当該地方公共団体からの借入金）	84	60
純資産総額	▲ 54	▲ 34

### （損益計算書から）

（単位：百万円）

	平成29年度決算	令和元年度決算
経常収益	619	587
経常費用	626	568
経常損益	▲ 7	19
経常外損益	0	▲ 6
当期純損益	▲ 7	13